

活動報告（2～3月）

市原市高校生選手権大会（2/18・23・24 市原臨海体育館他）

個人戦

男子

ダブルス

優勝 松井・大村
準優勝 山本・根岸
第4位 池田・小林
ベスト8 森島・菊池

シングルス

優勝 森島
準優勝 大村
第3位 松井
ベスト8 倉川

女子

ダブルス

優勝 山本・安井

シングルス

第3位 高梨
ベスト8 安井
山本
水野



主に第1・2地区を中心に、その周辺のチームが招待される、もうすぐ40年目を迎える歴史ある大会です。私立強豪の木更津総合や個人戦で女子が活躍する袖ヶ浦高校も出場し、トーナメントの終盤になると県ベスト8レベルの試合が繰り広げられます。本校は過去の先輩たちの成績を超え、歴代最高記録をたたき出すことや、男女全種目優勝、打倒木更津総合、特に男子はトーナメントベスト4を埋め尽くすことも目標に挑みました。結果は男子がダブルスで1・2位、シングルスで1・2・3位、女子はダブルスで初優勝、シングルスでは優勝はできませんでしたが、全員がベスト8に入り、4番手の高梨が木更津総合の2番手選手に接戦を制し、勝負強さを発揮しました。男女ともに過去最高の成績を記録し、チーム全体で冬の期間で取り組んだ練習の成果が出た大会となりました！

ダブルスで初優勝、シングルスでは優勝はできませんでしたが、全員がベスト8に入り、4番手の高梨が木更津総合の2番手選手に接戦を制し、勝負強さを発揮しました。男女ともに過去最高の成績を記録し、チーム全体で冬の期間で取り組んだ練習の成果が出た大会となりました！



男女全種目優勝までは届かなかったものの、ベスト8以上を市立千葉で埋めることができた。本校と同じ地区のチームが居ないため、会場全体では他チームの方が応援されやすく、アウェーの雰囲気の中で試合ができる大会でもある。逆境ムードの中でマイペースに試合を運べる精神力や他チームに負けない応援の力も必要となる。

埼玉遠征（埼玉県川越市）

昨年の関東大会で悔しい負けを喫した埼玉代表の川越東高校に遠征し、1日交流試合を行いました。8年連続の関東大会出場の実績を誇る私立男子校ですが、競技実技での入試はなく、全員が一般受験から入学し部活に加入しています。進学実績も高く文武両道で頑張っているチームであり、そういった背景から本校とは親和性が高く、様々な面で吸収できる部分があると感じました。

試合では団体戦でもしっかり勝ち切ることができ、関東大会のリベンジを果たすことができました。また、レギュラー以外のメンバーも落ち着いたゲームをすることが多く、ここまで様々な場所で戦ってきた経験を生かすことができた遠征となりました。

視界が広がり、関東大会出場へ向けて、また一歩前進です。



千葉県にはない男子校。学校全体でレベルの高い競争や自由な雰囲気がある。コートは20面が取れる広い体育館で、80名以上いる部員が、意識別に1軍2軍で分かれて練習していた。様々な面で、常識を超えていて、チームの見識が広がった。



4月の関東予選の前に行われる県内外の様々な大会や遠征試合に向けて3月は猛特訓！砂浜トレーニングやスタミナノックなど、粘り強く戦えるように様々な練習に取り組んだ。

東京遠征（3/23～）

春休みに入り高校生チャレンジカップⅢ部を皮切りに、東京都内で開催される大会に全員が1回以上出場。それぞれの場所で武者修行に励み経験値を積み上げていきます。高校からバドミントンを始めた井関、松永がリーグで力を発揮し、松永は目標だった決勝トーナメントに進出しました。都内の高校生が中心ですが、千葉県内からも市立船橋高校や市川東高校など初心者でも強い選手が揃う数チームを招待し、都内の選手たちと激戦を繰り広げ、千葉県のレベルの高さを見せました。フジ杯ジュニアカップでは女子レギュラー陣がシングルスで出場し、それぞれ決勝日に残る活躍を見せ、春の大会へ向け弾みをつけました！

全国公立大会（3/24・25 墨田区総合体育館）

トーナメント本戦

1回戦 富山工業（富山）0-3 ●

敗者戦

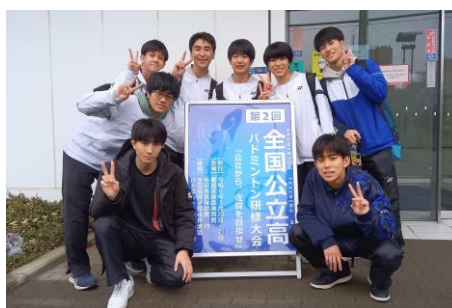
1回戦 播磨東（兵庫）3-2 ○

2回戦 一条（奈良）3-2 ○

3回戦 桂（京都）3-0 ○

交流試合 宮城工業（宮城）2-3 ●

結果 参加32校中17位



レギュラー3名が欠場する状況だったが、残ったメンバーとこの状況でレギュラー入りした1年生の活躍で勝ち越しを決めた。全国の舞台を借りてチームの総合力を付けることができた。



公立高校の県代表が集まり、そのトップを決める大会。本校は男子が代表に選ばれ出場しました。関東圏のチームや、夏の東海遠征で東海地区のチームとの対戦はありましたが、関西地区や東北地区のチームとの対戦は初になります。今回はチーム内で体調不良によるメンバー変更が複数発生し、レギュラーメンバーも3人入れ替える状況でしたが、ここまでしっかりとともに練習を続けてきた控えメンバーがベンチ入りし、選手たちの傍で声を張るとともに、プレイヤーとしても県外大会初出場を果たしました。2年生のダブルスがギリギリの試合

を制しつつ、シングルスで出場した1年生の小林や岡田が厳しい場面での大役を果たし、レギュラー陣を欠く中でも関西の県ベスト4勢に全勝という結果をもたらしました。

千葉県で公立高校がインターハイや選抜大会へ出場することは難しいですが、全国という舞台で千葉県代表として戦うことができたことや、自分たちの力が全国の舞台でも通用したことは大きな自信と誇りに繋がったと感じます。大会運営に携わってくださった先生や運営生徒の皆様、いつも応援して下さる保護者の皆様、本当にありがとうございました！

10年前には県大会に進むのも難しかったチームですが、少しずつ成長し、今や全国大会で堂々と戦えるチームとなりました。公立の雄としての矜持をしっかりと胸に刻み、これからも千葉県代表を目指して頑張っていきます！

令和5年度の活動報告（令和5年6月～令和6年1月）

千葉県学年別大会第8地区予選（7/23）

男子 県大会出場者
 2年生 1位 森島
 2位 大村
 3位 根岸
 5位 倉川
 1年生 2位 小林

女子 県大会出場者
 2年生 1位 松浦
 5位 水野
 1年生 1位 山本
 2位 安井
 3位 高梨

新チーム初の公式戦となる学年別大会地区予選。現2年生は昨年度コロナウィルスの影響でほとんど練習できずに参加することになりましたが、今年は最後まで継続した練習ができ、全力で戦える状態で臨めました。チームや個々の目標もそれぞれ設定し大会に挑みましたが、様々な記録を打ち立てられました。まず男子2年と女子1年で初の1・2・3フィニッシュ！男子2年で男子初の全員県大会出場！女子は初の1・2年ダブル優勝！また、過去2番目に多い10人が県大会出場を決めました。チームとしてはこの上ない第一歩となりました。県大会ではさらなる記録に挑戦していきます。



夏季合宿（山梨県都留郡）

夏季合宿は合宿としては初となる県外実施となりました。関東大会でお世話になった山梨県にて2泊3日で行いました。富士山のふもとでの地域で実施しましたが、朝は気温18度の体育館からスタートと練習環境は非常に良かったです。大会前ということもあり、県内の関東大会出場校との練習試合も行い、充実した合宿となりました。この後1週間の間に学年別大会、交流大会とほぼ全員が大会に出場することになるので、合宿で培った力を発揮してほしいところです。



移動中のSAにて。仲間と食べるアイスが格別！



富士山とトウモロコシ畑をバックに、練習しやすい環境で行うことができた。夏の大会での結果を期待したい。

千葉県学年別大会（7/28・29 YohaSアリーナ JFE 体育館）

男子
 2年生 大村 準決勝敗退 第3位入賞
 森島 準々決勝敗退 ベスト8
 根岸 2回戦敗退
 倉川 1回戦敗退
 1年生 小林 3回戦敗退 ベスト16

女子
 2年生 松浦 3回戦敗退 ベスト16
 水野 1回戦敗退
 1年生 山本 2回戦敗退
 安井 2回戦敗退
 高梨 1回戦敗退

地区の学年別代表同士で戦う学年別大会、本校は地区予選を勝ち抜いた10名で挑みます。男子は大村が終盤の粘り強さを発揮し、練習試合では勝てなかった公立No.1の選手や千葉敬愛の選手らを逆転で勝ち抜き、準決勝進出で本校初の第3位となりました。森島も本校初の2年連続ベスト8と大健闘しました。1年生では小林がベスト16に入るなど活躍しました。女子は私立強豪で推薦出場している強化指定選手が多く、1回戦を勝つと強化指定選手に当たる状況でした。そんな中で2年生の松浦が昨年の2年生に引き続きベスト16、1年生では山本が県2位千葉明德の3番手選手にファイナルゲームとなる粘りを見せ、最後は18-21と惜敗でした。男女ともに粘り強い試合が展開でき、歴代の記録も更新するなど大きな成長が見られた大会となりました。



合宿明けの大会となったが、多くの選手が粘り強さを発揮。また、今まで突破できなかったベスト8の壁を大村が打ち破った。

千葉県交流大会（8/1・2・4 成田市中台公園体育館 YohaSアリーナ）

男子

岡田	優勝	
池田	第3位入賞	
福谷	第3位入賞	
菊池	7回戦敗退	ベスト8
赤石	6回戦敗退	ベスト16



交流大会2年連続優勝！400名近い選手たちの頂点に立つのは至難。徐々に厳しくなる試合を制さなければならない。

今年度の県大会未出場の選手たちが出場できる交流大会。今年は4年ぶりに全学年での開催となりました。今回は2年連続となる優勝と、市立千葉で上位を占めるといった目標を持って挑みました。出場者が昨年の2倍となり、優勝には9連勝が必要です。長いトーナメントの中で、最終日は同程度の力を持つ選手同士の戦いとなり、後半に行けば行くほど厳しい試合が続きます。ファイナルゲームを作ってしまうと体力を消耗して後半の試合に大きく響いてしまいます。そんな中で、準決勝までストレート勝ちを収めながらうまく戦っていたルーキーの岡田が、最後まで戦い抜き優勝を収めました。また、ベスト4に3人の選手が残りました。新人大会でのレギュラー出場を目指し頑張ってください！

愛知遠征（愛知県知多市・大府市）



愛知県・三重県の上位チームが集まる研修大会に、関東地区代表のゲストとして招待され参加させて頂きました。愛知県ベスト8～32、三重県ベスト4～16のチームが出場し、レベル別のダブルス・シングルスで多くの試合を行いました。男女ともに大きく勝ち越し、県外の上位校が相手でも臆せずしっかり戦うことができました。



さらに、愛知県内の高校にて練習試合も行い、ここでも県ベスト8の星城高校や個人戦で愛知県ベスト16に入る選手たちを相手にしましたが、大きく勝ち越すことができました。関東圏外への遠征は3年ぶり、夏休みの実施となると4年ぶりの開催です。こういった遠征では様々な環境や文化の違いを学ぶとともに、他県の選手同士がコミュニケーションを取り合うことで様々な成長に繋がっていると感じます。気候は千葉県よりも蒸し暑い中で、選手たちは体育館でしっかり汗を流し、空き時間には駅前の夏祭りに参加するなど体育館の外でも元気に楽しんでいました。



選手育成に力を入れている大府では、ジュニアの育成でも使用される大きな体育館で開催。素晴らしい経験となった。

総合結果 男子 124勝24敗 女子 44勝8敗

夏季大会（8/14～18 YohaSアリーナ ほか）

団体戦

男子

リーグ①	幕張総合	3-0	○	
リーグ②	磯 辺	3-0	○	1位通過
準々決勝	経済大附	3-0	○	
準決勝	検見川	3-0	○	
決勝	千葉北	3-0	○	
結果	優勝			

女子

リーグ①	磯 辺	3-0	○	1位通過
準々決勝	検見川	3-0	○	
準決勝	千葉北	2-3	●	
決勝	幕張総合	1-3	●	
結果	第4位			

この代では初の団体戦の大会となります。男子は2年連続の優勝を全マッチストレート勝ちで達成することを目標に挑みました。レギュラーとなる7人全員が適材適所で活躍し、昨年以上に余裕を持った試合も多く、目標通り全試合をストレート勝ちで優勝を飾りました。

女子は、新人大会本番にピークを持って行くために、ここでは確実にシード権を取りつつ、試合経験重視で負担を最小限に抑え、個人戦を万全に迎えることを目標に戦いました。リーグ戦とトーナメント1回戦でストレート勝ちを収め、ここでは田村・千田の団体戦デビュー組の勝利が大きく貢献しました。以降の試合は無理せず戦い、大きなチャンスがある個人戦に向けて準備を整えることができました。

個人戦

男子

ダブルス	シングルス
準優勝 森島・大村	第4位 倉川
第3位 倉川・松井	ベスト8 大村
ベスト8 根岸・山本	

女子

ダブルス	シングルス
ベスト8 山本・安井	ベスト8 山本
田村・高梨	

新人大会地区予選のシード権を得るため、ベスト8以上が目標になる個人戦、男子は過去最多のダブルス3組とシングルス2人がベスト8に入り、ダブルスでは敬愛学園に2勝し初の2位3位、シングルスでも倉川が敬愛学園の選手に勝利し4位となりました。

女子も過去最多となる2ペアがベスト8を取り、準々決勝では準優勝した敬愛学園のペアを相手にファイナルゲームで接戦に持ち込むこともできました。またシングルスにおいても、男女ともに優勝選手を相手にファイナルゲームで攻略しかけていたところで負けてしまい、悔しい試合となりましたが数ヶ月前にはストレート負けを喫していた相手でもあり、そういった選手に対して肉薄できたことで、個々の成長とこの夏の練習の成果が感じられました。

全体を通して、1強だった敬愛学園にそれ以外のチームが歴代で最も近づけた夏季大会であったと思います。チャンスが来ていることは実感できたので、チャンスを掴むため新人大会本番へ向け、引き続き努力を続けていきます！



猛暑の体育館の中、粘り強く戦い、過去最高の成績を残すことができた。他チームも今後の成長が予想される中で、さらにリードを広げたい。

八千代オープン大会（8/20 八千代市民体育館）



昨年の秋以来の参加となる市民大会、今回は初めて八千代市の大会に参加しました。社会人や大学生との試合は非常に学ぶことが多く、またレギュラー以外の選手にとっては貴重な大会出場の経験に繋がります。1～3部にまんべんなく出場し、レベル別に良い経験を積むことができました。他の高校生は夏季大会前日の松戸六実高校が出場し、男子3部や女子2部の決勝で戦いました。

主な結果 女子2部ダブルス 優勝 山本・安井



急遽1年生のみとなった練習会でしたが、前部長のサポートもあり大成功！

中学生交流（9・10月）

本校では春夏秋に中学校の大会前に合わせて、所属部員の母校の中学校と練習を通じた交流を行っています。生徒たちがリードして、市立千葉での練習を中学生に伝えていきます。今回は黒川前部長の母校であるみつわ台中学校と練習会をしました。急遽2年生が不在となり1年生のみで行う形になりましたが、受験勉強の忙しい中母校ということで時間を作ってくれた黒川も来てくれて、1年生にとっては心強かったです。

1年生だけでも一生懸命練習をリードしながら、中学生との交流を楽しみました。バドミントンの楽しさや、市立千葉バドミントン部の魅力を伝えられたと思います。

県外交流（10月 東京）

10月は新人大会へ向けさらなる飛躍を目指し、県外の強豪チームとの交流でレベルアップを図ります。今回は東京都の強豪、国士館高校・城東高校・小岩高校との練習試合を行い、交流を深めました。

東京は競技人口も多いため、新人大会では西と東それぞれのブロックで分かれ、何週間もかけて決勝トーナメントを目指します。国士館高校は女子が西東京個人ベスト16に入る強豪。城東・小岩は公立でありながら、城東は男子が東東京個人でベスト8、小岩は女子が今年の関東大会にも出場し、女子ダブルスで実践学園を倒し約50年ぶりの公立での優勝を勝ち取るなど、非常にレベルの高いチームです。そんな東京の上位のチームからは学ぶことが多く、特に貪欲さやハングリー精神の強さを感じます。限られた時間やコート面数で少しでも練習できるよう工夫し、積極的に試合に入る姿勢やチャンスがあれば県外でもどこへでも行く姿勢など、千葉県で勝上がるためにも必要な部分だと感じます。チャンスを掴むために東京の選手達から感じ取ったものを武器に本番へ向けて調整していきます！



城東や小岩は多くの部員の中でレギュラーを掴み、千人を超えるトーナメントを勝ち上がっていく。少ないチャンスを掴むための貪欲さを見習い、身に付けていきたい。

団体戦成績

男子 国士館高校 5-0 ○ 城東高校 0-5 ● 小岩高校 3-3 △
 女子 城東高校 2-3 ● 小岩高校 1-5 ●



新チーム発足から約4か月、校内外問わず貪欲に練習を重ね、対外試合も男女合わせて計1000試合を越え、どんな場面でも勝ちに拘る姿勢を身に付けることができた。また、誰も大きなケガをすることなくここまで来れたことで、例年以上にしっかり準備ができた。このことが1番良かったことかもしれない。あとは本番でいつもの力を出すだけである。

団体戦

男子

準々決勝	昭和秀英	3-0	○
準決勝	検見川	3-0	○
決勝	経済大附	3-0	○
結果	1位	県大会進出	

女子

準々決勝	昭和秀英	3-0	○
準決勝	敬愛学園	1-3	●
3位決定戦	磯辺	3-0	○
結果	3位	県大会進出	



男女ともに過去最高の結果に。2年連続で男女全種目県大会出場！県ベスト8を目指す。

個人戦

男子

ダブルス	シングルス
2位 大村・森島(県進出)	2位 森島(県進出)
3位 倉川・松井(県進出)	3位 大村(県進出)
4位 根岸・山本(県進出)	6位 倉川
7位 池田・小林	

女子

ダブルス	シングルス
3位 山本・安井(県進出)	4位 山本(県進出)
7位 田村・高梨(県進出)	6位 松浦(県進出)
	7位 安井

団体戦では男子が夏季大会に続き全試合3-0で、地区編成後では初の新人大会予選1位となりました。決勝は適材適所の7人オーダーで勝利し、県大会には全員が戦力として挑めそうです。女子は勝負所としていた準決勝での敬愛学園戦でD2を制し、S2松浦が大量リードしているところで、S3山本が惜しくも敗れてしまい敗戦。大勝利まであと一歩というところで届きませんでした。予選でこのような試合を経験できたことは大きい意味があると思います。県大会ではもっと大事な場面で、同じような勝負のときが来るはず。この悔しさをそういった勝負で晴らせるように調整していきます！

個人戦では過去最高の男女9本・計9人の県大会出場を決めることができました！惜しくも県に行けなかった選手たちも地区総体でのシード権を計12枠確保し、これも過去最高の数となりました。男子ダブルスは4組中4組がシード権を確保しました。今年は個人でも県ベスト8を狙います！

令和5年度千葉県新人大会 (11/10・11・17・18 印西市松山下公園体育館 ほか)

男子

団体戦

組み合わせにより2回戦から			
2回戦	東葛飾	3-0	○
3回戦	学館船橋	3-0	○
準々決勝	西武台千葉	0-3	●
結果	第5位入賞		

個人戦

ダブルス	シングルス
大村・森島	森島
倉川・松井	大村
根岸・山本	
3回戦敗退	2回戦敗退
3回戦敗退	1回戦敗退
2回戦敗退	
ベスト16	
ベスト16	

来年度関東大会予選推薦出場枠獲得

男子は公立トップクラスの東葛飾が初戦の相手でした。後半のシングルスまで纏れると、公立No.1の選手も相手にしなければいけなくなり、何が起ってもおかしくないのでストレートで決めたいところです。D2が相手の1番手ダブルスとの対戦となりましたが、こちらはリバーシブル作戦でここまで団体戦無敗ペアの根岸・山本で迎え撃ちます。互角の展開となりましたが、最後は18-20と追い込まれた状況から追い付き、シーソーゲームの中で相手のラリーが守りに回った瞬間を捉えて攻勢を強め、過去最長の28-26で取り切りました。S1は団体戦無敗の倉川が締めて3-0勝利を収めました！

ベスト8を決める学館船橋戦では、今日の初試合となった選手たちの出足が悪くピンチを迎える場面もありましたが、しっかり3-0で抑え、目標であったベスト8を手にすることができました。個人戦では3年ぶりの男子県大会個人戦勝利を皮切りに、4年半ぶりとなるベスト16まで進むことができました。ベスト8が懸かった試合では西武台千葉の選手を相手に17点まで行けたゲームもありましたが、その先が遠く個人ベスト8の壁は厚かったです。



来年の記念大会へ向け、絶対に取りたかった今年のベスト8。5か月前から当日の試合直前までしっかり準備してきたことが、目指してきた結果に最高の形で繋がった。行こう神奈川！

1 回 戦	野田中央	3-0	○	ダブルス	山本・安井	2 回戦敗退
2 回 戦	千葉明德	1-3	●	シングルス	山本 松浦	1 回戦敗退 1 回戦敗退



女子は昨年に続き第2シードの下という厳しい場所に入りましたが、準備はしっかりできている状態でした。1回戦、水野・松浦のダブルスがこのペアで初の県出場となりましたが、エースダブルスを相手にしっかり勝つことができました。この勝利は今後のチームにとって大きなプラスとなると思います。2回戦の千葉明德は県2位の代表チームですが、予選での敬愛学園戦の経験を生かせれば、相手チームの初戦であることも踏まえて、勝利のチャンスが必ずあると感じていました。作戦がはまり相手はS1を薄くしてきたのでそこをしっかりと取ることができました。さらにD2がファイナルまで纏れる激戦となりました。後半のシングルスではS2が粘りを見せることで、S3まで引っ張り出す展開を作ることができました。惜しくも負けてしまいましたが、昨年同じ場面で戦った千葉敬愛以上に代表チームに接近した試合を見せることができました。チームとしては強豪私立にも太刀打ちできたという自信を持ち、個々としてはギリギリの展開でミスが多くなり、取れるゲームを落としてしまうことが目立ったので、しっかり修正して次のステージへ臨みます。

関東公立大会千葉県予選（11/23 市立千葉高校）

先生方の有志によりコロナ禍の3年前から始まった関東公立オープンが、様々な努力により今年から公式に関東公立大会として12月に開催されます。その千葉県予選が本校体育館で行われました。夏の県大会の結果等から選抜された男女8チームが出そろい、千葉県の代表権（男子4枠女子5枠）を懸けた試合を繰り広げました。千葉県代表として出場できる数少ない機会が得られる大会とあって、どのチームも気合の入った試合を展開し、特に代表決定戦となる準決勝（右写真）では、割れんばかりの歓声と選手たちの声が体育館中に響き渡りました！



ここ数年の千葉県の高校バドミントンは私立に圧倒されることが多く、今年に至っては男女ともにベスト8に公立が1校ずつしか入らない状況となっています。公立校が上位に入れるように頑張っていくことは、県全体の刺激にもなりますし、本校も含めて千葉県の公立校全体で千葉県の高校バドミントンを盛り上げていければと思います。実はベスト8まで私立で埋まってしまう県は千葉県だけで、他県ではまだまだ公立がベスト4以上に食い込んでるところも多いです。関東公立大会の本戦では今年の関東大会に出場したチームもたくさん出場する予定です。今回代表権を得たチームとともに関東大会を本気で目指しているチームを肌で感じ、また、千葉県の公立校も関東大会レベルの学校と渡り合えるというところを見せられるよう頑張ります！



この日は役員校として運営を最初から最後まで行い、試合では男女ともに目標であった代表順位決定戦で全勝し、最高の形で終えることができました。特に女子は練習試合で勝てなかった、新人大会女子で公立唯一のベスト8に入っている県立柏に勝利することができ、大きな自信となりました。

男子も学級閉鎖などで選手が足りなくなる中で、普段組んでいないダブルスにチャレンジするなど新たな戦い方を模索しながらも、ホームで試合ができる利点を生かし、ピンチを作らず勝利することができました。

男子結果 代表順位

第1代表 市立千葉 第2代表 松戸六実 第3代表 柏南 第4代表 東葛飾

女子結果 代表順位

第1代表 松戸六実 第2代表 市立千葉 第3代表 市立松戸 第4代表 県立柏 第5代表 市川東

東葉杯（11/26 東葉高校）

県内外から男女ともに強い学校が男女8チーム集まり、団体戦が展開される東葉杯。本校も招待していただき出場しました。この日は今年一番の冷え込みとなり、どのチームも全体的に硬いうりーが多かったですが、熱い試合が繰り広げられました。



男子は公立予選に引き続き戦力を欠いた状態でしたが、負けなしでしっかり優勝を勝ち取りました。関東大会予選で当たる可能性のあるベスト4の東葉高校とは引き分けに終わったので、2月の船橋オープンでしっかり勝ち切れるよう調整していきます。また、先日の公立予選では対戦しなかった松戸六実にも勝利。これで千葉県公立No.1が確定し、3月に行われる全国公立大会に千葉県代表として出場することが決まりました！関東大会出場とともに長年の大きな目標の一つで「公立No.1」を達成し選手たちの喜びも一入でした。

女子は男子以上に県の上位チームが出場していたので厳しい展開も予想していましたが、ストレートの負けを作らず引き分けに持ち込むなど、かなりの粘りを見せました。特に公立No.1の松戸六実を相手にはあと少しで勝利できるところまで追い込み、関東予選に向けて希望を繋げました。また団体ベスト8の東葉にもD1で勝利し、中央学院戦では1週間前の個人戦で敗れた個人ベスト8のD1にもリベンジ勝利し、団体戦としても3-0で勝利するなど、この1週間での成長が顕著に表れ、結果以上に成果のあった大会となりました。

男子結果

1位市立千葉 2位東葉 3位下妻一 4位国土館/芝浦工大附属

女子結果

1位松戸六実 2位東葉 3位下妻一 4位国土館 5位越谷東/市立千葉

男女ともに良い流れの中で秋のシーズンを終えることができました。テスト明けから始まる冬のシーズンは、引き続きしっかり体を作りケガに気をつけながら、粘り強く戦えるように練習を重ねていきます。また、県内外の代表チームとの試合や大会を通じての交流を深めることで、千葉県代表として戦う重みを感じながらも、それを力に変える自信や誇りを持って臨めるような成長を目指していきます。

市原会長杯（12/10・17 市原ゼットエー武道館）

市原市のクラブ団体戦が4年ぶりに開催され、これで例年出場していた大会のうちコロナ禍で中止になっていたすべての大会が復活しました！本校は男子のA・Bチームと女子のAチームで出場します。男女のAチームは顧問の前身のチームから引継ぎ、十数年かけて徐々にリーグを昇格させ、5部まで到達しています。男子のBチームは9年前に新規チームとして11部から始めて7部まで到達しました。高校生チームも出場していますが、社会人チームや小中学生のジュニアチームが中心に相手となります。男子チームは前回・前々回対戦していたチームが相手で、戦力も把握できている状態で挑みました。Aチームは前回1-2で敗れた社会人チームに2-1で勝利し、リーグ全勝で前人未至の4部昇格を果たしました！Bチームは社会人チームに惜しくも敗れましたが、関東予選で1・2地区1位で県大会に出場する可能性の高い市原八幡高校と対戦し、3-0のストレート勝ちを収められたのが大きな収穫となりました。



女子はジュニアチームやレディース・大学生チームと対戦し、相手のランクが全て上であり厳しい状況でした。残念ながら3敗し降格となりましたが、月末の関東公立大会へ向け良い経験を積むことができました。

結果 男子A→4部昇格 男子B→7部残留 女子A→6部降格



関東公立大会（12/26～28 神奈川県綾瀬市 東京都多摩市）

男子

予選トーナメント

1 回 戦 東 村 山（東 京）2-0 ○
 2 回 戦 草 加 東（埼 玉）2-1 ○
 準 決 勝 相模原弥栄（神奈川）2-1 ○
 決 勝 甲府工業（山 梨）1-2 ●
 代表決定戦 大 宮 東（埼 玉）2-0 ○

決勝トーナメント

準々決勝 宇都宮北（栃 木）1-2 ●
 結 果 第 5 位

女子

予選トーナメント

1 回 戦 杉並総合（東 京）2-0 ○
 2 回 戦 深谷第一（埼 玉）2-1 ○
 準 決 勝 湘 南 台（神奈川）2-1 ○
 決 勝 鴻 巣（埼 玉）0-2 ●
 代表決定戦 城 東（東 京）0-2 ●

結 果 第 9 位

ついに関東公立大会の日がやってきました。初日は神奈川で女子の試合が行われます。コロナ禍では実施されなかった整列しての開会式や選手宣誓が実施され、また各都県別に整列したことで代表としての誇りを感じつつ、良い緊張感の中始まりました。予選から各都県ベスト8のチームが並び、本校も西東京ベスト8の強豪杉並総合が初戦の相手です。



女子は千葉県ベスト32から各都県のベスト8以上に立ち向かうが、対抗できる力は十分！一致団結し相手の隙を突く！

前大会では、しっかり準備を整えていたことで初戦の強豪相手にパフォーマンスで大きく上回り、実力差を埋めることができていたことから、今回も朝から余裕を持って会場入りし、試合の始まる直前までしっかり調整をして臨むことができました。そして、全試合ストレート勝ちの2-0で今年も一番大事な初戦を取ることができました。2回戦は東葉杯で敗れた茨城ベスト8の下妻第一を相手に2-0で勝ち上がってきた埼玉ベスト8の深谷第一、S1の山本が力を発揮し快勝で流れをつくり、D2もその流れに乗ってストレート勝ち！予選準決勝に進みました。次の相手は神奈川の湘南台、今回は山梨ベスト4の甲府商業を破って勝ち上がっていましたが、昨年のトーナメント最後の相手で、その時はギリギリの試合で勝ちを逃したので対戦したらリベンジを誓っていました。ここでもS1が持ち前の粘りを発揮し相手エースからストレート勝ち、D2の松浦・安井は1ゲーム目を取られて後がない状態から逆転。ファイナルゲームは相手の気

持ちが弱っているところを突いて、持ち前のパワフルな攻撃を序盤から展開し、10点差以上を付けて勝ち、見事去年のリベンジを果たしました！決勝トーナメント目前の予選決勝、相手は5月に練習試合で完敗した埼玉ベスト8の鴻巣、ここではD1、S1が19-21の惜しいゲームを展開するもあと一歩及ばず、悔しい負けを喫してしまいました。そして、その後に決勝で負けたチームと3位決定戦で勝ち上がったチームが試合をする、いわゆる「2位決定戦」が決勝トーナメントを懸けた最後の試合として立ちはだかります。千葉では採用されていない方式なので、気持ちの入れ方も難しいうえに、未体験の団体戦5戦目、しかも相手は東東京3位の城東、最後は2桁得点がやっとの状態で精神的・体力的に厳しい試合となりました。



この代初めての千葉県代表として戦う舞台で躍動！それでも負けた悔しさは次の舞台での躍進に繋げる！

最終結果は32チーム中の9位です。昨年24チーム中の11位で、今年は参加校のレベルも上がっていることから考えると、大きく飛躍を遂げることができたと思います。また、声を出しての応援が解禁になったことからこの半年間で練習を続けていたチームの応援も確立されてきて、選手を後押ししました。部員全員が大きく試合に貢献でき、プレイや結果以外の部分でも成長の見られた大会となりました！

男子は初日の女子の結果にプレッシャーを感じながらも、ベスト8以上に残り最終日も試合をすることを目標に挑みました。初戦は前年優勝で西東京ベスト8の東村山、2年前にも初戦で対戦し、その時は完敗だったのでリベンジも目指します。序盤は緊張がありましたが、準備を入念に行い、よく動いていたこともあり、中盤からは相手を圧倒しストレートで勝ち上がりました。男子の参加校のレベルは非常に高く、1回戦を勝つと県ベスト4以上のチームが続きます。2回戦は埼玉公立トップクラスの選手がいる埼玉ベスト4の草加東、D1は関東大会経験の根岸・松井に託します。1ゲーム目をマッチポイントから逆転される悪い流れで、ファイナルゲームも序盤から7点差を付けられる状況でしたが、コツコツと点差を縮め、後半の接戦から流れをつかみ21-18で勝利、勝負強さを発揮しました。S1の倉川がダブルスから勢いを貰い、18点までの粘りを見せましたが惜しくも敗戦。D2の大村・山本は1回戦の大事な試合を戦っていたので、落ち着いてゲームを作り、エースダブルスを相手に2ゲーム目を一桁で抑えました。



予選準決勝は神奈川ベスト4の相模原弥栄、4年前の夏遠征での惨敗以来、県外遠征の際は選手たちも意識することの多かった常勝チームです。今年は強力な1年生に加え、シングルスで県6位の選手もいる層の厚さを誇り、神奈川県トップの川崎総合科学を抑えて4強入りをしています。D1が敗れ後のない状況で、S1の森島が1ゲーム目を粘って26-24で制し、2ゲーム目は自分のペースに相手を誘い込み、県の代表選手からの金星で起死回生の勝利を手に入れました。D2も手強い相手ですが、対公立校団体戦無敗ペア

の根岸・山本で挑みます。ファイナルゲームまで纏れましたが、中盤に流れを掴んだあとは相手に流れを渡さない攻めを展開し勝利。1つの目標だった世代を超えた4年越しのリベンジを果たしました！

予選決勝は山梨2位の甲府工業、中学の関東大会にダブルスで出場していた双子のペアがそのままチームに所属し、個人でも山梨代表となっています。D2の大村・松井が代表選手も含むダブルスから接戦のファイナルゲームを21-16で制しました。S1は完敗となりましたがD1が接戦となり、ファイナルゲームで相手の勢いから後半にミスを連発し敗戦。男子も昨日の女子に続き「2位決定戦」へと進むこととなりました。しかしここで体育館の利用時間が少なくなり、次の日の朝に順延することとなりました。惜敗の後に負けたら決勝トーナメントへ進めないという精神的にも厳しい状況でしたが、形は変わっても最終日に試合ができるということで気持ちを切り替えて明日に向かいました。

大会最終日、代表決定戦の相手は前日の3位決定戦で相模原弥栄に接戦勝利を収めていた埼玉ベスト8の大宮東です。朝一番の会場準備が行われる横での試合でしたが、気持ちを整えながら挑みました。何度も迎えるピンチを凌ぎ、ダブルスもシングルスもギリギリながら相手にリードされずにゲームを取りストレート勝ち。目標の決勝トーナメントに進出することができました！準々決勝は栃木2位の宇都宮北、4年前には県1位となったこともある強豪です。D2で勝利することができましたが、D1 S1で完敗しトーナメント敗退。そ



男子のベスト8は1都7県各1校という形に。文字通り公立最強チーム陣に挑む！

の後は決勝トーナメントから参加の川崎総合科学や、茨城ベスト4の鬼怒商業とも交流試合を行い、この場でしか経験できない試合をいくつも経験できたと同時に、大会を通して様々な課題を見つけることもできました。



試合以外の自由時間は、仲間との絆を深める大切な時間

結果は男女ともに千葉県代表で最高順位となりましたが、千葉で関東大会の出場権を得るためには、強豪私立の壁を乗り越えていかないとはいけません。しかし、今大会で県外の公立校の関東大会に懸ける思いも共有し、改めて大きな刺激となりました。同じ目標を持った公立校同士、互いに切磋琢磨することで関東大会出場への足掛かりとなるはずです！

また、遠いところ応援に来てくださった保護者の皆様、本当にありがとうございました！



昭和学院は中学高校のチームが合同で練習している。コーチも配属され、コートも最大12面で練習ができる。

合同練習

他校との交流と、多様な練習でさらなるレベルアップを図るため、県内の高校に行き合同練習を行いました。強豪私立で練習環境も整っている昭和学院高校や、公立の環境の中で選手をしっかりと鍛えている松戸六実高校の練習に参加させていただきました。両校とも選手層が厚く、レベルの高い中での競争もできていて、そういった選手たちとともに様々な練習ができたことが、本校の選手たちにとっても非常に刺激になりました。お互い同じ目標に向かう者同士で思いを共有し、切磋琢磨することでチームのレベルアップに繋げていきたいです。



松戸六実は体育館の改築等があり、校舎体育館に行くのは2年ぶり。フィジカルトレーニングをしっかりと行って、練習内容も、同じ公立校として親和性があり、本校の練習でも取り入れていきたい。

船橋オープン高校生大会 (2/12 船橋アリーナ)

男子

1回戦 市川東 2-0 ○
準決勝 東葉 2-1 ○
決勝 松戸六実 2-0 ○
結果 優勝 (5年ぶり8回目)

女子

1回戦 市川東 2-0 ○
準決勝 東葉 1-2 ●
3位決定戦 松戸六実 0-2 ●
結果 4位 (第3位入賞)



1部2部と別れて団体戦を行いますが、関東大会を目指す上で強いチームと試合をすることに意義があるため、本校は例年1部に出場しています。昨年は男女ともに入賞しましたが、男子は関東大会でベスト4を懸けた試合となる可能性が高い東葉高校を打倒し、優勝を目指します。女子もベスト8レベル以上のチームと対等に戦い、昨年以上の成績を取ることを目標にして臨みます。

男子は接戦になりながらも勝った試合は全てストレート勝ちでの優勝を収め、決勝では3年生を出場させていた松戸六実高校に昨年のリベンジ勝利をし、5年ぶり8回目の優勝を収め優勝カップを奪還しました。女子は男子同様に重要だった東葉高校に胸を借りるつもりで勝負しましたが、惜しくもD2のファイナルゲームで敗れてしまいました。次の松戸六実高校との試合もファイナルゲームであと2点が届かず惜敗となり、結果的には19年ぶりとなる2年連続入賞ですが、ギリギリの状況で最後のゲーム、最後の1点を取り切る勝負強さが課題となります。



出場するほとんどのチームにとって、この大会が関東予選前最後の団体戦となる。関東出場を目指す上で、重要な位置付けとなるが、男女で目標を達成。2年連続で男女ともに入賞するのは20年ぶりで、歴史的な記録となった。

令和元・2年度

男子

団体戦

新人大会地区予選 3位
新人大会 第5位入賞
関東大会・総体 中止

個人戦

学年別大会 2学年 ベスト16 上野
1学年 ベスト16 安藤 高橋

女子

団体戦

新人大会地区予選 3位
新人大会出場
関東大会・総体 中止

平成30・31年度

男子

団体戦

新人大会地区予選 3位
新人大会 第3位入賞
関東大会県予選会 第3位入賞 (代表入り)
千葉県総体 第3位入賞
関東大会出場 (25年ぶり15回目)
優秀学校賞受賞

個人戦

学年別大会 2学年 ベスト16 岡本
1学年 ベスト16 上野 荒井
新人大会 ダブルス ベスト16 岡本・藤崎
千葉県総体 ダブルス ベスト16 山田・太田

女子

団体戦

新人大会地区予選 地区8
関東大会地区予選 1位
関東大会県予選会 ベスト32

平成29・30年度

男子

団体戦

新人大会地区予選 3位
関東大会地区予選 2位
新人大会 ベスト16
関東大会県予選会 ベスト16
千葉県総体 ベスト16

個人戦

学年別大会 1学年 ベスト8 岡本
千葉県総体 ダブルス ベスト16 三谷・岡本

女子

団体戦

新人大会地区予選 地区8
関東大会地区予選出場

栄光の歴史（現存する資料を基に、団体戦の結果を主にまとめています。）

- 昭和36年 創部
- 42年 男子関東予選・県総体準優勝で関東大会初出場 この後9年連続関東大会出場
 - 44年 男子新人大会初優勝
 - 45年 男子関東予選初の千葉県1位
 - 46年 男子県総体にて宿願の初優勝
 - 53年 男子10度目の関東大会出場 関東大会ベスト16
10回出場の栄誉を称えられ関東高体連から表彰を受ける
 - 56年 創部20周年
 - 61年 男子関東予選3位 関東大会出場 新人大会2位 関東選抜大会出場 女子新人大会ベスト8
 - 62年 女子関東予選ベスト8で関東大会初出場を逃すも県総体にて3位
 - 63年 男子関東予選2位で関東大会出場 関東大会ベスト16
- 平成 元年 男子関東大会2年連続13回目の出場
- 6年 男子関東予選5位で14回目の出場
 - 8年 男子新人大会3位
 - 9年 男子県総体ベスト8
 - 13年 創部40周年
 - 19年 男子新人大会ベスト8
地区編成により地区が現在の12に、敬愛学園が同じブロックへ編入される
 - 20年 男子関東予選・県総体ベスト8 男子優秀学校賞受賞
 - 22年 男子新人大会ベスト8
 - 23年 創部50周年
男子関東予選ベスト8 女子新人大会ベスト8
 - 30年 男子新人大会ベスト4
- 令和 元年 男子関東予選・県総体ベスト4 男子優秀学校賞受賞
関東大会25年ぶり15回目の出場 男子新人大会ベスト8
- 2年 新型コロナウイルス感染症まん延のため関東大会・総体が中止
 - 3年 創部60周年
男子県総体ベスト8 女子新人大会ベスト8
 - 4年 男女関東予選ベスト8 男子県総体ベスト8
 - 5年 男子関東予選ベスト4 関東大会4年ぶり16回目の出場
男子新人大会ベスト8 関東公立大会男子5位 女子9位
 - 6年 男子全国公立大会出場

創部から60年以上の歴史を持ち、本校で最も古くから存続している部活動の1つであるバドミントン部。男子の関東大会出場回数は県内6番目の多さであり、創部年から数えると公立校最多の出場数である。個人では昭和43年にダブルスでインターハイ初出場を筆頭に、昭和45年新人大会にてシングルス・ダブルスで優勝、昭和48年国体のダブルスで4位、昭和59・60年には新人大会のシングルスで2年連続優勝、国体の県代表選手に選ばれるなど多くの名選手を輩出した。女子は昭和61・62年の黄金世代で新人大会・関東予選ベスト8、県総体では私立強豪を破り3位の成績を残している。

近年の千葉県は私立校が上位を占め、公立校が関東大会や全国大会へ出場するのが難しくなっている。しかし、その状況にも令和元年に公立校として13年ぶりとなるベスト4での関東大会出場を果たした。その後も選手たちの思いを繋ぎベスト8を逃さず記録し続け、令和5年には4年ぶりとなるベスト4での関東大会出場を決めた。これからも先人たちが築き上げた歴史の上に立っていることを自覚し、市立千葉としての矜持で大きな目標に向かって努力を続け、新たな歴史を作っていきたい。